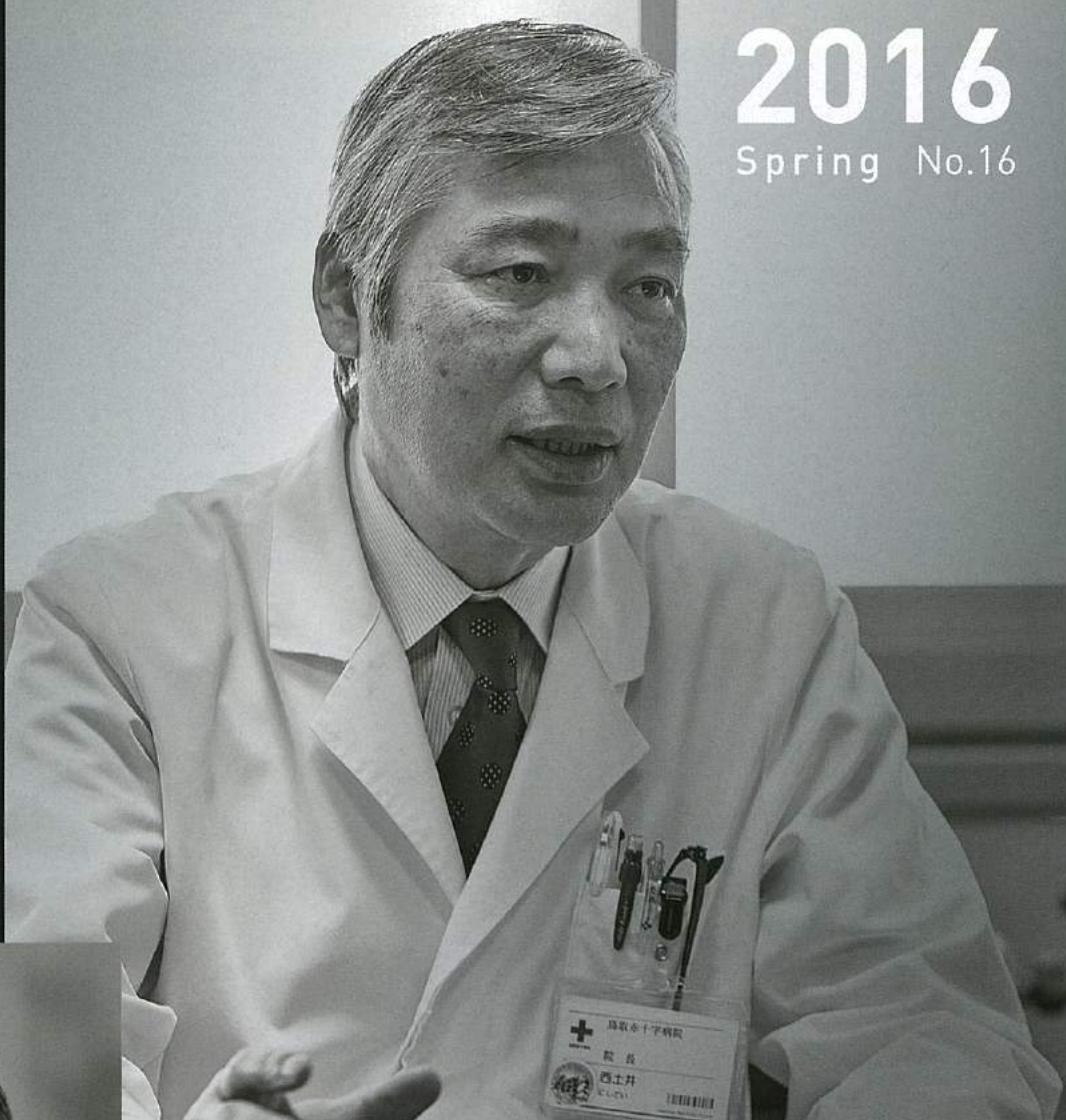


KLI NI KOS

とっとりの医療【クリニコス】
2016 春号



2016
Spring No.16



スペシャルトーク
鳥取赤十字病院 院長
西土井 英昭 氏

この医師にせまる
鳥取大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター
ワークライフバランス支援センター
センター長

神崎 晋 氏

女性医師の視点
鳥取大学医学部附属病院 小児科

金子 祥子 氏

鳥取の病院から

医療法人社団

尾崎病院

鳥取の研修医たち

山陰労災病院

Doctor's File

鳥取の病院から

医療法人社団

尾崎病院

鳥取空港から車で数分、鳥取市湖山町。多くの学校が集中する文教地区に位置する尾崎病院。

透析センターや健診センターを備えた病院に加え、

通所リハビリテーションや訪問看護ステーションも運営し、

「人生後半のトータルサポート」を理念とした地域の高齢者を支える病院だ。

尾崎病院
OSAKI HOSPITAL



高齢者の人生をサポートするための取り組み

治療や予防などを目的に行われるユニークな取り組み

「人生後半のトータルサポート」

を理念に掲げ、地域の高齢者が安心して相談できる病院を目指している尾崎病院。医師であり法人の理事長でもある尾崎舞氏に、尾崎病院の地域での役割、今後の活動指針などについて伺った。

「人生後半は色々な技術を持った人のサポートが必要になります。私たちのような小さな病院では、それがやりやすいと感じています」。

高齢者が安心して暮らすには、医師や看護師、理学療法士などの医療に関わるスタッフだけではなく、介護に関わるスタッフとの連携が必要になる。医療や介護に関する機会が失われます」。介護スタッフが発言できる環境づくりが、同院の理想に近づくためのひとつ心になっている。

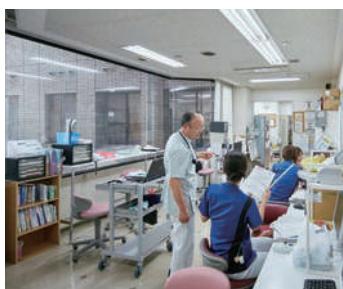
理念を端的に表しているのが同院



図 ロゴマーク



人工透析中のリハビリテーション。
ベッドにおけるサイズのエルゴメーターを使用。



開放的なナースステーション。



運動療法を行うリハビリテーション室。

のロゴマーク(図)だ。中心の円は「ひとりの人」、周りの円は尾崎病院にある「12の部門」を表現し、尾崎病院全体でひとりの患者を支えていくという姿勢を意味している。

医療と介護の連携を取り、地域の人をサポートしていくたいといふ同院だが、医療スタッフと介護スタッフの間には見えない壁が存在しているという。その壁を解消するために、介護スタッフの中で、看護師長のような役割を決め、病院と折衝できるような人を育成したいと考えている。「介護スタッフが意見を言えない」と、言いなりで働くようになり、気づいたことを改善する機会が失われます」。介護スタッフが発言できる環境づくりが、同院の理想に近づくためのひとつ

現在、同院で行われている特徴的な治療のひとつが「腎臓リハビリ」だ。これは人工透析中に行う運動療法で、目に見える効果がある。

人工透析の開始から1時間ぐら

い、状態が安定したところで、エルゴメーターを用い15分程度の運動を行う。体力が落ちるのを防ぎ、QOLを向上させる効果があるそうだ。九州の病院では取り入れてきている所が多く、実施にあたっては、九州で実地訓練を行いました。この地域で取り入れているのは、尾崎病院だけだと思います。効果が分かり

やすいので、患者さんたちのモチベーションも上がるようです」。合い言葉は「いつまでも、自分の足で透析室へ」。この取り組みは全国的にも広がりを見せており。

また、罹患率が高いにもかかわらず、受ける人が少ない乳がん検診にも力をいれている。少しでも抵抗なく受けてもらえるよう、女性医師である尾崎理事長と女性のレントゲン技師により実施。毎年10月の第三日曜日に行われるJ.M.S(日曜日に乳がん検査を受けられる日)の活動にも参加している。

「出前講座」も同院ならではのユニークな取り組みのひとつ。地域の人たちに医療の知識を活用して欲しいという思いで始めた活動で、腰痛予防、認知症予防など17の講座から希望の講座を選べる仕組みだ。公民館や介護施設などで行われることが多い。講座を行うスタッフも楽しんで行っている。

また、「美楽食」の取り組みもユニークなものだ。患者の食事を見ていて「食べにくそう」と感じたところから始めたこの取り組み。実際に病院で出される食事を試食したり介護用の食器を試したりすることで、スタッフ全員の意識が高まっている。患者からの申し出がなくては、スタッフの気づきで食事とその環境が改善されていく仕組みだ。

看護師や介護スタッフなど働く女性が多いのはどこの病院にも言えることだが、同院では、保育園の費用を補助することで、働く女性への支援を行っている。通常の保育料以外の部分の全額補助がそれだ。「休日、夜間、病児さらに学童保育についても全額補助していく」と。これにより、育児を理由に辞める人が大きく減った。また、女性医

看護師や介護スタッフなど働く女性が多いのはどこの病院にも言えることだが、同院では、保育園の費用を補助することで、働く女性への支援を行っている。通常の保育

師の働き方にも幅を持たせる努力をしている。パート勤務も認め、午前中だけ、外来だけなど、各医師の実情に合わせて勤務形態が選べる制度がある。

このような制度は、独身のスタッフや男性には適用されないため、全員に適用される制度も実施している。「自分磨き手当」は、例えばNHKなどの講座を受講する一定の費用を補助するというものの。まだ利用するスタッフは少ない

そうだが、同院の人に対する考え方を表れている一例だといえる。

働く女性のワークライフバランスをケア



スタッフの努力が埋もれてしまわないように報告書には返事を書くという尾崎氏。

尾崎病院3つの柱

- 1 検診・外来の強化**
早期の発見、治療と啓蒙活動で地域の健康に貢献
- 2 リハビリの強化**
生活に根ざしたリハビリメニューで在宅復帰を支援
- 3 訪問の強化**
自宅でも安心して暮らせる訪問看護、訪問リハビリの充実

医師たちが自由に利用できるカフェスペース。



尾崎病院が進める3つの柱の基本的な考え方は、地域の患者を「24時間笑顔で診る」という目標を前提としたものだ。検診や外来を強化することによって、病気を早期に発見すること。リハビリを強化することにより、より早い在宅復帰を促すこと。在宅でも安心して過ごせる訪

問看護や訪問リハビリの体制づくり。ベッドの上でもできる「セルフリハビリテーション」のメニュー開発なども取り組みのひとつだ。まだまだ医師もスタッフも足りないということが、地域にとつても働くスタッフにとって、理屈的でも理想的な病院に向けて、着実な歩みを続けている。

「24時間笑顔で診る」ことを実現するために



DATA

医療法人社団 尾崎病院
見学などのお問い合わせ先

医療法人社団
尾崎病院

〒680-0941
鳥取県鳥取市湖山町北2-555
TEL:0857-28-6616
FAX:0857-31-0730
URL:<http://www.ozakihp.or.jp/>



鳥取しゃんしゃん祭に参加。ユニフォームの背中には尾崎理事長のファーストネーム「舞」の文字。